

# 学校教育総合プランに沿った重点とする取り組みと評価

【返子市立沼間中学校】

学校教育総合プランの柱 ① **授業づくり**

2016年(平成28年)度

2017年(平成29年)度

2018年(平成30年)度

<p>学校及び学年等の実態</p>	<p>授業に取り組む姿勢はできているが、わからないことを意思表示できなかったり、難しいと感じたことには取り組めない生徒がいる。また、学習の定着は課題である。ここから、学びの目当て及び学習規律の明確化、また、意欲を持って学習に取り組ませるため、生徒主体の授業及び双方向的な授業への改善が必要である。</p>	<p>2, 3年生は学習の意欲はあるが、様々な発達の特性により全体のスピードに併せて学習を進めることには困難がある生徒も多い。 1年生は小学校での丁寧な指導により学習を積み上げてきているが、複雑なことを理解させるには中学校でも段階を踏む必要がある。 職員に若手が増え、学校全体としても授業力の向上は喫緊の課題である。</p>	<p>3年生は真面目に学習に取り組める落ち着いた生徒集団であるが、基礎学力が低く、知識が定着しない生徒も多い。 2年生は衝動的な発言をなかなか抑えられない生徒が数名いる。 1年生は落ち着いた集団で、協力して学ぶ姿勢ができている。 職員体制が大きく変わり、新たな組織としてのスタートを切るので、新学習指導要領に対応した授業を学校全体として創っていくことが課題である。</p>
↓			
<p>目標</p>	<p>授業研究の充実を図る</p>	<p>授業研究の充実を図る</p>	<p>授業研究の充実を図る ・返子市教育委員会の2年間の委託研究を受けるに当たり、新学習指導要領に対応した授業づくりを学校全体で進める。</p>
↓			
<p>取り組み計画</p>	<p>①横浜国大及び国大附属鎌倉中学校及び沼間小学校・県立逗葉高校とも連携した校内研究を進める ②授業力の向上を目指す、生徒主体のinput-intake-outputを意識した授業づくり及び授業のユニバーサル化</p>	<p>①授業構成のユニバーサルデザイン化を校内研究課題をして設定し、すべての生徒が参加できる授業づくりに全教職員で取り組む。 ②授業構成のユニバーサルデザイン化について、講師を招き研修を行う。</p>	<p>①全員が参加できる授業を、授業のユニバーサルデザイン化の視点で進める。 ②単元計画を各教科で検討する。 ③単元計画の中で、学習を深める活動をどこにどのように組み込むか、また、その活動の目当て、評価等を含めて検討する。 ④代表授業だけでなく、全教員が年2回の授業公開を行い、研究を深める。</p>
↓			
<p>実践内容</p>	<p>①横浜国大米澤准教授を授業研究のスーパーバイザーにお願いして適切なアドバイスをいただくとともに、横浜国大鎌倉中学校の協力を仰ぎ、授業研究を進めた。 ②研究と関連させた公開授業を実施した。校内授業研究会では生徒主体のアクティブ・ラーニングの授業について研鑽を深めた。 年間指導計画に生徒主体の授業の実施を明記した。</p>	<p>①年2回、全教員が授業構成のユニバーサルデザイン化をテーマとした授業公開を行う。 ②授業のチェックシートで定期的(年4回を予定)に自己チェックを行いながら、授業改善に努める。 ③6月と12月に代表者による研究授業を行う。</p>	<p>①「主体的で、対話的な深い学び」についての研修を行う。 ②全教員が「全員が参加でき、深い学びのある授業づくり」をテーマに公開の研究授業を行う。 ③各教科でいくつかの単元計画を作成し、学習を深める活動を取り入れるタイミング等を検討する。</p>
↓			
<p>評価</p>	<p><b>B</b></p>	<p><b>A</b></p>	<p><b>A</b></p>
<p>評価の根拠</p>	<p>・年間2回の研究授業を行うとともに、年間1回の授業公開により、全職員で生徒が主体的に学習し、思考し判断し表現するという授業について研修した。 ・横浜国大米澤先生や横浜国大付属鎌倉中の先生、近隣の逗葉高校、逗子高校の先生方の協力を得て研究会を進めることができた。 ・各教科で、生徒主体の授業の計画を年間計画に盛り込み、年間を通じて実施することができた。</p>	<p>・年2回の研究授業を行った。小学校、高等学校との研究協議を行うことができた。 ・全教員が「授業構成のユニバーサルデザイン化」を取り入れた授業公開を年2回行うことができた。 ・授業の自己チェックを定期的に行うことで、意識すべき項目が職員の中に浸透した。</p>	<p>・校内研究を進める中で、教師側が話しすぎない、生徒が主体的に学ぶ時間を組み込んだ授業が行われるようになった。 ・個々の生徒の学び方の特徴を考慮した教材の提示、視覚教材等の工夫が広まった。 ・話し合いや教え合いの場面での態度目標が提示される授業が増え、生徒にとってすべきことが明確になった。</p>
↓			
<p>課題</p>	<p>・教員の年度途中での交替等もあって、一人2回以上の授業公開の機会を持つことが難しかった。 ・生徒主体の学びを単元の計画のどこに持ってくるのがより効果的かを探る必要がある。</p>	<p>・生徒全員が参加できる授業を構成する中で、グループ活動等を取り入れ生徒主体の場面を作り出すことはできてきたが、その学習での到達目標が教員自身の中で明確になっていないことが多く、学習が十分には深まっていない。 ・個別の声かけなど、一人一人の支援のニーズにあった対応を全教員ができるようになる必要がある。</p>	<p>・次期学習指導要領の方向性、各教科の見方考え方を再度確認し、生徒が主体的に学ぶ場面の設定を工夫する。 ・ねらいや目標をはっきりと提示した授業を行う。グループでの学習についても、態度目標や学びの過程で評価する点について明らかにする。 ・安心して学習できる場、学級、グループを形成するために、グループワーク等の手立てをとる必要がある。</p>

学校教育総合プランに沿った取り組みと評価

【返子市立沼間中学校】

学校教育総合プランの柱 ② 集団づくり

2016年(平成28年)度

2017年(平成29年)度

2018年(平成30年)度

<p>学校及び学年等の実態</p>	<p>一・小・一中の連続した人間関係の中で、優しく包まれている良さもあるが、居心地の悪さを感じながらもそれを表出できない生徒もいる。同年代に対する接し方を変える転換ポイントを把握できずに、いじめと捉えられてもおかしくない行動をとってしまいがちな生徒もいる。</p>	<p>一・小・一中の連続した人間関係の中で、固定化した関係から抜け出たくともそれができず、自分を表出できずにいる生徒が少なからずいる。連続した関係の中で、同年代に対する接し方の転換ポイントを把握できずに不適切な言動をとってしまいがちな生徒もいる。教員集団は若手が増え、生徒に年齢的に近いことがプラスの面もあるが、問題となることの把握が十分にできないことも考えられる。</p>	<p>一・小・一中の連続した人間関係の中で、同年代に対する接し方の転換ポイントを把握できずに不適切な言動をとってしまいがちな生徒がいたり、変化していく状況の中で安心な居場所がないと感じてしまう生徒もいる。教員集団側が生徒の状況を良く看取り、生徒の課題や、学級の課題等を的確に把握し対応する必要がある。</p>
↓			
<p>目標</p>	<p>問題行動等への対応 積極的ないじめ・不登校等への未然防止と早期発見・早期対応に努める</p>	<p>問題行動等への対応 積極的ないじめ・不登校等への未然防止を行い、早期発見・早期対応に努める</p>	<p>問題行動等への対応 新たな不登校生徒やいじめを生まない学級集団・学年集団を形成する。 早期発見・早期対応に努める</p>
↓			
<p>取り組み計画</p>	<p>①安心・安全な学級づくりに向けて、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等の手法を導入する ②学級づくりの自己チェック表・解説を活用する ③本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、問題行動の防止に向けた取り組みを実施する ④空き時間を利用した「Sの時間」を活用し、学級の見守りや、不登校生徒への個別対応を行う</p>	<p>①安心・安全な学級づくりに向けて、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等の手法を導入する ②学級経営の自己チェックを定期的(年3回を予定)に行う 巡回SC等からの学級集団の状況のアセスメントを積極的に活用する ③本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、問題行動の防止に向けた取り組みを実施する。生活アンケートを実施し、いじめ等の問題行動の早期発見に努める。 ④教員の「S時間」を活用し、学級の見守りや、不登校生徒への個別対応を行う</p>	<p>①ソーシャルスキルトレーニング等の手法を用い、どの生徒にとっても居場所のある学級を形成することによりいじめ・不登校等の未然防止を行う。 ②学級づくり研修や、学級経営の自己チェックリストを活用し教職員の集団づくりの力を伸ばす。 ③学年毎に重点課題を確認し、具体的な対応策を考え、解決に努める。 ④本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、問題行動の防止に向けた取り組みを実施する。生活アンケートを実施し、いじめ等の問題行動の早期発見に努める。</p>
↓			
<p>実践内容</p>	<p>①各学年の実態に合わせて、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等の手法を取り入れた学級活動等を行った。 ②学級づくりの自己チェック表で担任の取り組みを確認し、学級づくりに役立てた。 ③いじめに対する学校の方針を生徒・保護者に伝え、問題行動の防止に取り組んだ。生活アンケートを年2回実施し、早期発見・早期対応に努めた。 ④個別対応による、学級づくりへのサポートを行った。</p>	<p>①各学年の実態に合わせて、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等の手法を取り入れた学級活動等を行う。 ②学級経営の自己チェックを定期的実施し、その分析を元に学級づくり、集団づくりの課題を全職員で共有する。 ③いじめに対する学校の方針を生徒・保護者に伝え、問題行動の防止に取り組む。生活アンケートを年2回実施する。生徒自身がいじめのない学校づくりについて考える。 ④問題が発生した場合には個別の対応を含め、迅速に解決に当たる。</p>	<p>①自己チェックリストを用い、学級経営や生徒指導の方法を振り返り、生徒にとって居心地の良い学校をつくる。 ②学年毎に生活アンケートから重点課題を明確にし、具体的な対応を考え、取り組む。 ③いじめについてアンテナを高くし、生活アンケートや教育相談を通じて、気がついてことはどんなことでもきちんと対応する。</p>
↓			
<p>評価</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>評価の根拠</p>	<p>・ソーシャルスキルトレーニング等を取り入れた活動で生徒の気持ちの成長を促すことができた。 ・年度当初の学級づくり研修の内容を自己チェック表で確認することができ、年間を通じて学級の状態に合わせた対応をすることができた。 ・生活アンケートにより、生徒の困り感を把握し、早期対応に結び付けることができた。</p>	<p>・学級活動の中で、コミュニケーション・スキルを高める活動やソーシャルスキルトレーニングを取り入れることができた。 ・年度当初には支援部主催で学級開きのための研修を持ち、学級づくり、集団づくりについての共通理解を図った。 ・学級経営の自己チェックを実施するとともに、節目毎に学級経営の研修をし、振り返りを行った。 ・落ち着いた学級集団が形成されている。 ・問題発生時には緊急対策会議を開き、組織的に解決にあたった。 ・学級復帰のための個別の対応等、一人一人に合わせた支援が行えた。</p>	<p>・通年で取り組むことはできなかったが、ソーシャルスキルやコミュニケーション力を向上させるための取り組みは学級集団のお互いの関係性を穏やかにするのに役立った。 ・不登校対応について、学年毎の取り組みを行うことはできた。 ・欠席が続いている生徒宅には継続的に家庭訪問し、状況を確認しつつ、次の段階へ進むことができた。 ・いじめの早期発見、早期対応に努めた。特に相談に上がった案件については迅速に対応できた。 ・問題発生時にはチームとして役割を分担し、組織的に解決にあたった。</p>
↓			
<p>課題</p>	<p>・生徒の様子を的確に把握できるよう、定期的に研修を持つ必要がある。 ・チェックリストを活用し、全体として取り組む重点を検討したい。</p>	<p>・欠席が続いている生徒へ、継続的な家庭訪問等の働きかけが必要である。 ・生徒の様子を的確に把握し、小さな変化を見逃さずに気付ける教員集団となるために、継続的な研修が必要である。 ・自己チェックリストの項目から重点を決めて取り組む。</p>	<p>・いじめ対応、不登校対策を進めていく上で、ソーシャル・スキル・トレーニングなどの研修は継続的に行う必要がある。 ・生徒が話しやすい職員が対応するなど、担任任せにするのではなくチームとして対応していきたい。</p>

学校教育総合プランに沿った取り組みと評価

【返子市立沼間中学校】

学校教育総合プランの柱 ③ 学校組織づくり

2016年(平成28年)度

2017年(平成29年)度

2018年(平成30年)度

<p>学校及び学年等の実態</p>	<p>学校生活の中で、困り感を抱える生徒がどの学年にも複数存在している。また、自尊感情、自己肯定感が低い生徒も多い。</p>	<p>学校生活の中で、困り感を抱える生徒がどの学年にも複数存在している。また、自尊感情、自己肯定感が低い生徒も多い。</p>	<p>プラスの声かけ(Treasure Student褒章制度を含む)によって、自己肯定感を持てる生徒は増えてきている。が、教員の力として、「生徒の良い部分を見いだし認める」力を更に伸ばしていきたい。特別支援学級在籍の生徒も含め、生徒全体を支援の視点をもって育てる意識を教員間に高めなければならない。学習面での困り感を十分表現できない生徒はどの学年にも複数存在している。</p>
↓			
<p>目標</p>	<p>支援教育の推進 支援教育について、パーソナルアプローチとユニバーサルアプローチの二方面から取り組む</p>	<p>支援教育の推進 支援教育について、パーソナルアプローチ(支援シートの活用)とユニバーサルアプローチ(授業構成のユニバーサルデザイン化)の二方面から取り組む</p>	<p>支援教育の推進 ・特別支援学級在籍生徒の交流級での指導等、学校全体で情報を共有し、具体の支援を検討する ・パーソナルアプローチ(支援シートの活用)とユニバーサルアプローチ(授業のユニバーサルデザイン化)の二方面からの取り組みを更に強化する</p>
↓			
<p>取り組み計画</p>	<p>・子どもの自尊感情を高め、プラスのストロークで子どもに接する(Treasure Student褒章制度の実施) ・校内支援体制及び相談体制を強化し、家庭との連携を図って個々の生徒への支援を進める ・授業のスタンダードを守り、授業のユニバーサル化に取り組む ・年間2回の「目指す生徒像自己評価」を実施し、生徒に自らの力(コンピテンシー)がついたのか、振り返らせる。</p>	<p>①子どもの自尊感情を高め、プラスのストロークで子どもに接する(Treasure Student褒章制度の実施) ②校内支援体制及び相談体制を強化し、家庭との連携を図って個々の生徒への支援を進める(支援シートの活用及び合理的配慮の研究) ③授業のスタンダードを守り、授業構成のユニバーサルデザイン化に取り組む</p>	<p>①子どもの自尊感情を高め、プラスのストロークで子どもに接する(Treasure Student褒章制度の実施) ②支援シートの情報を全教職員で把握し、個々の生徒への支援を進める ③授業のスタンダードを守り、授業構成のユニバーサルデザイン化を進める ④校内支援体制及び相談体制を再構築し、全教職員で支援教育を進める</p>
↓			
<p>実践内容</p>	<p>①個々の生徒へのアセスメント(見立て)を通して、特別な支援を必要とする生徒について具体的な支援プランを検討し、支援シートを作成した。 ②支援シートを作成した生徒を中心に、困り感を抱く生徒に対し、支援教室等を活用し個別の対応(支援プログラム)での支援を行った。 ③授業のスタンダードを学校全体で確認した。授業のユニバーサル化のポイントを職員で共有し、個々の授業でユニバーサル化を進めた。 ④Treasure Student褒章については、1月末時点で300名の生徒を表彰した。 ⑤「目指す生徒像自己評価」を年間2回実施し、1年前の自己評価に比して2・3年生は大きく評価を伸ばした。</p>	<p>①子どもの良い面を評価する意識を常に持つことを全職員で確認する。 ②個々の生徒及び保護者の困り感を、支援シート等を活用し個別の対応や合理的配慮等で解決できるよう支援する。 ③校内研究と合わせ、ユニバーサルな視点からは授業のスタンダードを全職員で徹底し、授業構成をユニバーサルデザイン化することで全生徒が落ち着いて授業に参加できる状況を作り出す。(授業についての自己チェックシートの活用)</p>	<p>①毎月、各学年からTreasure Studentを推薦してもらうことで、生徒の良さを取り上げ話題にし確認する。 ②支援を必要としている生徒の支援シートを作成する。 ③支援シートの支援の方向を全教職員で把握し、それぞれの関わりの中で支援する。 ④授業のスタンダードを年度当初に全教職員で確認し、授業規律を守る。 ⑤学び方の特性に配慮した授業構成や視覚資料等の教材を活用した授業で生徒全体を支援する。 ⑥各学年の教育相談CDを中心に、様々な困り感のある生徒をSCにつなぎ、学校生活を安定させる。</p>
↓			
<p>評価</p>	<p><b>A</b></p>	<p><b>A</b></p>	<p><b>A</b></p>
<p>評価の根拠</p>	<p>・支援シートを作成する中で、支援についての理解が深まった。 ・個別の対応について、取り組む中で、職員の理解が進み、全体での協力の体制が取れた。 ・困り感を持っている生徒を含めた学級全体への言葉かけなど、授業のユニバーサル化が進んだ。 ・生徒自身による肯定的な自己評価が2・3年生において、大きく伸びた。</p>	<p>・沼中スタンダードを全体で確認しつつ、落ち着いた授業の雰囲気を作り出すことが概ねできた。 ・合理的配慮の具体的な要望はなかったが、授業構成のユニバーサルデザイン化がある程度できた授業では、困り感を感じている生徒も主体的に学習に参加することができた。 ・生徒の良い面を評価するTreasure Student褒章制度では、多くの生徒を励ますことができた。</p>	<p>・教職員のTreasure Studentを推薦をする視点を広げることができた。様々な生徒の活躍を評価できた。 ・支援シートをもとに生徒への関わり、声かけのポイント等を確認し、支援することができた。 ・学び方の特性に配慮した授業を進めることで、全員が参加できる授業を実施することができた。 ・SCが年度途中で交代するという事もあったが、困り感のある生徒と幅広く関わりを持ってもらえた。</p>
↓			
<p>課題</p>	<p>・支援シートの作成についてさらに研修する必要がある。 ・授業のユニバーサル化を進めつつ、様々な状況の中でも強く生き抜く力を育成することを並行して行いたい。</p>	<p>・作成した支援シートを活用する。 ・授業構成のユニバーサルデザイン化が不十分なところを、全生徒が主体的に取り組める授業という視点を加えて更に研究する。 ・生徒に対する言葉かけを、前向きなプラスの表現にする意識を高める。</p>	<p>・支援シートの更新を行い、活用する。 ・引き続き、支援を必要としている生徒への支援シートを作成する。 ・学び方の特性について、教員が引き続き研修していく必要がある。</p>

学校教育総合プラン実施計画・評価一覧 2016(H28)～2018(H30)

【 逗子市立沼間中学校 】

3 つの 柱	項 目	行 動 プ ラ ン	3年間を見据えた取り組み内容 (できるだけ具体的な内容で記載する)	成果	重点	成果	重点	成果	重点	項目別	項目別	項目別	柱別	柱別	柱別
	実施計画の重点等			2016	目標	2017	目標	2018	目標	2016	2017	2018	2016	2017	2018
I 授業 の 充 実	1 授業力の向上	① 「確かな学力」を育むための指導の充実	少人数学級、少人数指導、ティームティーチング等、効果的な学習形態の工夫・改善を、数学、理科、保健体育、英語で実施する。	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	73%	80%	80%	70%	73%	75%
		② 授業研究の充実	①横浜国大及び国大附属鎌倉中学校及び沼間小学校・県立逗葉高校とも連携した校内研究を進める ②授業力の向上を目指す、生徒主体のinput-intake-outputを意識した授業づくり及び授業のユニバーサル化を図る。	B	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>						
		③ 学習規律の確立	教育のユニバーサル化と関連させて作成した、本校の「スクールスタンダード」を見直し、全校で取り組む。	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>						
	2 多様な教育活動の充実	① 読書活動の推進	市立図書館等との連携・協力の下に、カリキュラムのねらいを把握し、学習情報センターとしての機能の充実に努める	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>	69%	71%	73%			
		② 防災・減災教育の推進	避難所運営委員会や消防署など関係機関と連携した、身近な体験活動等を通じた防災教育を行う	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>						
		③ 食育と体力づくり・健康教育の推進	学校教育課管理栄養士と連携して、中学校給食と関連させた食育を進める。	B	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>						
		④ 情報教育の推進	教科におけるICT（情報通信技術）を活用した生徒の発表実践を増やしていく	B	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>						
		⑤ 福祉教育の推進	外部機関との連携を積極的に図り、性教育、精神障害やストレス回避、性的マイノリティー（LGBT）、手話等について学習をさせる	B	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>						
		⑥ 環境教育の推進	生徒会の環境委員会による、主としてゴミの減量化を中心に、持続可能な開発のための教育（ESD）としての環境教育を進めていく	B	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>						
		⑦ キャリア教育の推進	1年「将来の夢」、2年「職場体験」、3年「義務教育終了後の進路」と、段階的に自分の生き方を考えさせるとともに、逗子の街づくりとも関連させる	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>						
⑧ 国際教育の推進	学校として、国際教育・多文化共生教育に取り組む	B	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>								
⑨ 市民性教育の推進	逗子の街づくりを柱とした、1年「逗子を知る」、2年「個人的なテーマ設定」、3年「逗子市への提言」の流れで取り組む	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>								
II 集団 の 充 実	1 認め合う集団づくりをめざして	① 基本的な生活習慣の育成	各家庭に対して、睡眠確保・朝食の摂取・孤食を減らす・家庭のルールづくりを依頼し、状況を把握する	B	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>	75%	75%	75%	75%	75%	75%
		② 豊かな心を育む教育の推進	①発達段階に応じて、行事や体験学習との関連を図りつつ、ねらいの深化を図る ②教科の年間指導計画に道徳との関連を明示する	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>						
		③ 体験活動の推進	沼中ラーニングと自然体験学習、修学旅行等の取り組みを関連付ける	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>						
		④ 問題行動等への対応の推進	①学級づくりの自己チェック表・解説を活用する ②年2回の生活アンケートを実施する	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>						
III 学校 組 織 の 充 実	1 支援教育の推進	① 支援教育の推進	個々の生徒へのアセスメント（見立て）を通して、特別な支援を必要とする生徒について具体的な支援プランを検討し、支援シートを作成して支援を進める	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	80%	80%	80%	75%	78%	78%
	2 安全・安心に向けた取り組み	① 学校安全の推進	①毎月の安全点検を確実に実施し、異常箇所については速やかな対応を図る ②年間3回の、災害時伝言ダイヤル訓練を実施し、大規模災害時の連絡体制を確実なものとする	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	80%	80%	80%			
	3 研修・研究の推進	① 研修事業の充実	授業のユニバーサル化に向けた研修の実施	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	70%	75%	75%			
		② 教育に関する業務の標準化に向けた取り組み	市教委主宰の標準化検討委員会と連携しながら、29年度実施に向けて本校でも検討を続ける	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>						
		③ 信頼に基づいた指導の推進	市教委が主宰する「信頼に基づいた指導」と連携し、学校としての具体的な取り組みを振り返る	B	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>	B	<input checked="" type="checkbox"/>						
		④ 教育の情報化の推進	ICTを活用した指導の充実を図り、「分かる授業」の実践を検証し、改善する	B	<input type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>						
	4 開かれた学校づくり	① 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	①教職員研修等において小・中連携を深め、学びの連続性を追及する ②小・中での授業参観や出前授業等の実施、小中連携研修会におけるアクティブ・ラーニングの研究に取り組む	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>	80%	80%	80%			
		② 地域との連携の推進	①学校支援地域本部の協力の下、教科の授業や「自学自習の会」、「花いっぱい運動」などに地域講師、学校支援ボランティアの活用を積極的に図っていく ②図書館ボランティア募集を継続し、開館時間を増やすとともに生徒の読書活動を保障する	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>						

%は、Sを5、Aを4、Bを3、Cを2とし、項目数×5で割った数値

評価基準 S・・・想定以上の顕著な成果が見られ、行動プランが達成された(100%～90%程度) A・・・想定していた成果が見られ、行動プランが達成された(90%～70%程度)  
B・・・課題はあるが一定の成果が見られ、行動プランが概ね達成された(70%～30%程度) C・・・成果が見られず、または一定の成果が見られたが、行動プランは達成されなかった(30%～0%程度)